



基礎看護技術に関する研究

保健福祉学部 看護学科
教授 青井 聡美（あおい さとみ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3516号室
Tel 0848-60-1120
E-mail aoi@pu-hiroshima.ac.jp
* @マークは半角に置き換えてください

専門分野： 基礎看護

キーワード： 看護技術 体位変換 生活習慣病

● 現在の研究について

○看護職者の腰痛発症の原因動作は、中腰や前屈の姿勢などの動作を伴う体位変換や移乗介助の割合が高いとされています。また、高齢化社会を迎えるわが国では、身体的介助を必要とする人は増加すると考えられ、介助動作における身体的負担の軽減が図られなければならないため、介助者の腰への負担がかからない介助法の検討がなされてきています。また、現在、看護技術で用いられているボディメカニクスの考え方は、患者への配慮も技術の中に含まれますが、無理・無駄がないように効率よく体位変換を行い、また技術を適用する場面では、相手を動かないものとしてとらえ、介助者側の負担軽減に重点がおかれているという現状があります。そこで、基礎看護技術のひとつである体位変換の方法に注目し、介助方法の違いによる介助者、対象者に与える身体的負荷や精神的負担の影響について研究しています。

○ライフスタイルの欧米化に伴い脂肪摂取過多の食生活や運動不足が誘因の内臓脂肪型肥満による生活習慣病を有する人が増加し、生活習慣病関連の疾患は、国民医療費全体の1/3を占めると言われています。また、生活習慣病の危険因子である高血圧や高脂血症、動脈硬化、肥満などは認知症の発症にも関与していることが明らかとなっています。そこで、研究協力に応募した三原市在住の中老年女性を対象に定期的に健診を行

い、骨密度および動脈硬化と認知機能との関連について縦断的に検討しています。

● 今後進めていきたい研究について

○身体的負担が少ない介助方法を体位変換技術に取り入れることで、介助者の腰痛などの軽減および予防に効果があると考えています。
○これまでの研究結果をふまえて、継続的に検診や運動・生活指導教室などを開催し、生活習慣病予防に努めていきたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

看護・介護技術の質の向上に向けて、病院や施設と連携が可能です。

● これまでの連携実績

本学主催の公開講座ほか、三原近隣地区の保健医療福祉に携わる方々と親睦を図り、人間の動きに関する知識・技術の交流と研究を促進する目的で、2ヶ月に1回のペースで研究会を開催しています。